

東京iCDCリスコミチームによる グループインタビュー調査結果（2023年3月実施） 2023. 3. 30

- 調査方法 : グループインタビュー（120分）
- 実施場所 : 都内のインタビュールーム
- 調査対象 : 東京都に住所を有する20代から70代までの者 6名×6グループ 計35名（1名欠席）
- グループ設定 : 性別、年齢層、居住地、コロナ感染経験などに偏りがないように設定
- 調査期間 : 2023年3月8日（水）～ 3月11日（土）
- インタビュー項目：
 - 新型コロナ流行による影響（ポジティブ／ネガティブ）
 - 新型コロナの収束、共生のイメージ
 - 今後行政から発信してほしい情報
 - 行政に取り組んでほしいこと など

<インタビュー調査>

コロナ流行によって、経済面、生活、社会活動、教育などの面でどのような影響、変化がありましたか。

【ネガティブな影響】

旅行や遊びに行けなくなった

「家族で海外旅行に行っていたので、それができなくなったのはストレス」（20代女性）
「父も高齢で、いろいろなところに行けないのはかわいそう。」（50代女性） を含む9名

人との交流が減った、外食できない

「中学の同級生と、2ヶ月に1回位会っていたが、全く出来なくなった。」（60代女性）
「毎月勉強会をやっていて社外の人との横のつながりがあったが、その勉強会がなくなった。」（50代男性） を含む10名

入院者に会えなかった、看取れなかった

「自分が入院しているときに、家族が荷物を持ってきてくれているのに、会話も出来ない。」（30代女性）
「親戚がコロナとは違う病気でなくなった。ワクチンの前だったので看取れなかった。」（40代女性） を含む3名

教育環境が悪化した

「2020年の4月から大学に入学。東京に来て、キャンパスライフも出来ないし、人とも会えない」（20代男性）
「孫が小学校6年で卒業式もなく中学の入学式もクラブ活動もなくて楽しい生活を送れたはずなのにかわいそうだった」（70代女性） を含む5名

【ポジティブな影響】

テレワーク推進で勤務環境が良くなった

「会社でリモートワークを推進してくれた。そんなのは全く無かった会社なので。会社が進んでいった。」（40代女性）
「コロナになって働き方がかなり違った。テレワークとかZoomのようなウェブの会議というツールがかなり普及した。」（50代男性） を含む8名

テレワークで通勤がなくなった

「仕事もテレワークが出来るようになって、通勤の時間を寝る時間にあてられるようになった。」（30代男性）
「幸いなことに、2020年の3月から在宅になった。通勤のストレスが減った。」（60代男性） を含む4名

ネットでの楽しみが増えた

「足が悪くて家にいるが、家にいる辛さが分かる人とか、SNSで繋がる人が増えて、ネットでの出会いが増えたのが良かった。」（30代女性）
「ネットでテイクアウトをしたり、ネット動画を新しく契約したり、家にいて色々な時間の使い方が出来るようになった」（20代男性） を含む4名

飲み会などの嫌な付き合いが減った

「会社の忘年会とか飲み会とか、絶対出席と言われているものが一切なくなった。残業もしないで早く帰っていいとか、職場での強制的なストレスがすごく減った。」（40代女性）
を含む2名

- ◆ コロナ禍によって、**ネガティブな影響**と**ポジティブな影響**とがあった。
- ◆ ネガティブな影響としては、「**旅行や遊びに行けなくなった**」、「**人との交流が減った**」といった、**外出自粛**や**人との接触を減らすこと**等にもなう**影響についての意見**が多く聞かれた。また、医療機関や高齢者施設の**面会制限による影響**、**教育環境の悪化の深刻さ**についての声もあった。
- ◆ ポジティブな影響としては「**テレワークで勤務環境が良くなった**」、「**ネットでの楽しみが増えた**」など、**オンラインの活用・普及による変化**についての意見が聞かれた。

<インタビュー調査>

感染は今後もある程度続いていくと思われませんが、どのような状況になったら「収束した」と思えますか。「コロナと共生」のイメージは？

インフルエンザと同じような感覚で捉えられるようになったら

「インフルエンザ並み、普通の風邪並みになったら収束。季節の風邪と一緒に毎年これから延々と続いていくと思う。」(70代男性)
「インフルエンザと同じ感覚で、みんなが行動するようになったら元通りになったなと思う。」(50代男性) を含む9名

感染しても普通のことと思えるようになったら

「ふつうに、コロナにかかっちゃったと言えるようになったら。特別なことではなくなる。」(60代女性)
「誰でもかかる、みんながかかる。かかる人が多くなる、かかって当たり前という状況になったら」(50代女性) を含む3名

病院で他の病気と同じように診てもらえるようになったら
病院が逼迫しなくなったら

「病院でふつうに診察してもらえるようになったら。コロナも特有のものではなくて、ふつうの病気の1つとして見てもらえる。」(30代男性)
「介護施設も含めて医療機関が緩和されて、医療機関や現場が普通に動き出すことがある程度目安になると思う。」(60代女性) を含む5名

治療薬が普及したら

「治療薬が市販化されて、風邪薬と同じくらいの価格で買えたら。病院で処方箋を出してもらわないと買えないのではなくて。」(40代男性)
「薬が出たら。インフルエンザの薬は普通のクリニックでも処方してもらえるので、普通の病気の感じで医療が受けられると収束かな」(30代女性) を含む7名

感染者が十分に減ったら

「ニュースを見ていて、重症者数とか死亡者数が、明らかに減ってきたら。」(50代女性)
「感染者数が、1ケタになったら、収束かな。0という訳にはいかないと思うけれど。」(60代女性) を含む3名

報道されなくなったら

「テレビで毎日のように感染者数が発表されることがなくなったら。今も夕方に毎日やっているが、それがなくなったら収束。」(20代男性) 1名

すでに収束/共生している状況だと思う

「もう収束していると思う。新規感染者が減っているし2類から5類になると決まったから、それを考えると終わってはいないが収まっているとは思う。」(60代男性)
「自分の中で収束していると思っている。重症化率が極端に低いから。かかっても普通の風邪くらいのもの方がほとんどだから。」(40代男性) を含む4名

- ◆ 「コロナの収束」や「コロナと共生」のイメージは人によって異なり、既に収束していると考える人もいた。
- ◆ 収束や共生の条件としては、感染者数の低下や治療薬の進歩、どの医療機関でも受けられる環境に留まらず、人々の気持ちの落ち着きもたらすものと受け止められていた。

<インタビュー調査>

今後行政から発信してほしい情報、行政に取り組んでほしいことは何ですか。

感染者数の公表は続けてほしい

「数が増えてくればどうい株かも検査をするだろうし、数字はある程度追って欲しい。何千人台とかアバウトでも増えてきたと言ってくれたら、また気をつけ始めると思う。」(40代女性)
「感染者情報の報告は毎日して欲しい。これは続けてくれないと。なくなったら何を頼りにしたらいいかわからない。切った途端に大変なことになりそう。」(60代男性) を含む5名

感染した際にどうするか 受診できる病院の情報

「ワクチンの情報と病院の情報」(70代男性)
「かかったという予感がしたときに、どこに連絡をすればいいのか。医者に行く前に。どう対処すればいいのか。」(70代男性) を含む7名

事業主や病院、学校に対しての情報発信

「一般市民に対してより、事業主とか病院側にアピールしてほしい。一企業で判断は難しい。指標を指し示してくれたら、企業も動きやすいと思う。」(30代男性)
「学校関係。子どもがいるので。安全ですよという情報を、教育現場から真っ先に周知できるようにして欲しい。」(50代男性) を含む3名

ワクチン費用/治療費用の支援

「ワクチンも無料じゃないと打たない人はいると思うので、高齢者は無料で打てるといい。」(60代女性)
「医療費は補助してもらとうとありがたい。それも年代によって。高齢者とか基礎疾患のある方には手厚い補助が欲しい。」(60代女性) を含む11名

病院での対応を整備

「医療機関の連携や他の病気でもたらい回しになっていたがそれが生じないようなシステムは継続してもらいたい。」(30代男性)
「今コロナは特別な病院でしか受け入れていないが、これからは普通の病院でも受け入れてくれる体制ができれば安心だ。」(40代男性) を含む7名

経験を今後活かす

「新型コロナで検討したり、やったことを風化させないで。今後もこういうのは出ると思うので、今回の経験をベースにやって欲しいかな。」(30代男性)
「今後、この位の感染症が広がることもあるかも知れない。これに対応を風化させないで、この対策を同じ様なことのためにいかして欲しい。」(50代女性) を含む4名

- ◆ 感染者数について目安となるような情報（増減の傾向など）や、感染時の対応（連絡先、受診先など）に関する情報の提供継続の希望がある。
- ◆ 個人に対してだけでなく、事業主や病院、学校に対する情報発信をしてほしいという意見も。
- ◆ 医療体制の整備を含めて、今回の経験を今後活かしてほしいとの声も。

<まとめ>

- コロナ流行によって、都民の暮らしには**ポジティブ、ネガティブの両面で様々な影響**があった。
- 今後の流行によって感染し、医療を受ける可能性について、回答者の多くは認識している。そして、「**今後はどのように医療を受けるのか**」、「**どのくらいの医療費がかかるのか**」について**漠然とした不安を抱えている**。
- 収束についての捉え方は様々であるが、**医療提供体制の進展**だけではなく、**人々の気持ちの落ち着き**によってもたらされるという考え方も示された。